

コワーキングスペース利用者との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	コワーキングスペース利用者
日時	令和6年8月21日（水）18時30分から20時00分まで
場所	リナシティかのやコワーキングスペース（オープンスペース）
参加者	コワーキングスペース利用者6名（男性2名、女性4名）
	市長、商工振興課職員、政策推進課職員

意見交換

- 1 コワーキングスペースを利用して気づいた点
- 2 コワーキングスペースの使い方について
- 3 コワーキングスペースに色々な人に来てもらうには

【参加者からの主な意見】

1 コワーキングスペースを利用して気づいた点

- 椅子が、スペースAは、座り心地は良いが、Bは座り心地が悪い。
- 来やすい雰囲気が良い。Bは、一人用のテーブルなど色々なテーブルの大きさがあればもっと使いやすい。
- 子どもを連れてきて、親は仕事、子どもは宿題として利用したが静かに集中できて子どももまた来たいと言っている。
- おしゃれなカフェがあれば良い
- 夜遅くまで開いているのが非常に追い。
- 鍵が開きづらく、チェックインにもたつく。電波が入りにくい。
- スペースAは、真ん中に仕切りが欲しい。ただ、資料を広げて作業するので仕切りが無い方が良いという意見もある。
- 高校生も多く、静かに勉強して利用している。
- オンライン会議で利用しているが横の人の声が聞こえる。

《市長》

- Aは集中、Bは活発にワイワイしてもらうため、違いがある。
- 移動式の仕切りなどが考えられる。
- よく利用しているからこそその意見が聞けた。特に入館システムについては、調べてみたい。

2 コワーキングスペースの使い方について

- コワーキングであるイベントやセミナーの情報がすぐ分かるようにしてほしい。イベント一覧や簡単なイラスト等で知れればうれしい。
- ママが集える会など、子どもと一緒に来れるセミナー等を実施してほしい。いろいろな方が使うことで、敷居がさがるとはではないか。
- 高校生も多く利用しているので、大人と接する機会があってもいいのではないかと。東京の企業のオンライン社会見学ツアーなど、ターゲットを絞ったものなどはどうか。
- いろいろな方が利用していることから、利用者が講師となった話などが聞けた

ら使い方も広がると思う。

- オンラインにて犬の文化祭などの事業展開を考えているが、イベントやセミナーの利用申請が出来れば、つながる輪も広がると思う。
- PRはSNS以外でも掲示板など色々な媒体でしてほしい。
- コワーキングで未来を話すことも良いが、鹿屋市の良い所や高齢者の経験談なども知る機会があったら鹿屋をアピールできる。

《市長》

- イベントなどの情報発信については、市も考えなければいけない。
- コワーキングの使い方は利用者が主流となってほしい。
- イベントは利用者で開催し、広報は市が担うなどが考えられる。
- 鹿屋市でもかのや風土記や、ふるさと検定など企画している。シビックプライドの醸成を図ることは重要である。

3 コワーキングスペースに色々な人に来てもらうには

- 動画や写真などで中の雰囲気が分かるような仕掛けをしてはどうか。
- 外から見て分かるよう、ポップやフリーペーパー、カフェなどを設置してはどうか。
- 飲食スペースの利活用については、店を営んでいるが、食事があれば話も弾むため、スポットで出店できた方が良い。また、人に知られるまでに企画者も経費を掛けにくいことから、セミナー等に対して助成金があれば良い。(栄養士と子育てママを繋げるイベント等)
- イベントや日替わり弁当、ロイズのチョコ出前出店など、足を運んでもうらう仕掛けも良い。
- 避難所としても良い施設であり、パントマイム、路上ライブ的な簡単に仕掛けられるものでも良い。

《市長》

- 提案型の使い方については、年10件や20件程度はアイデアを形にすることは可能であり、内容に公共性があれば考えられる。
- リナシティ全体で考えれば、色々な使い方が出来る。利用者で盛り上げて欲しい。喫茶スペースは、金土日限定や無人でも良いので、使い方については検討している。

4 その他

- イベントをしたいと思う。
- 色々な方と交流を図りたい。
- コワーキングスペースの周知については、学校でチラシを配布し保護者に知ってもらうなど、もっと知ってもらいたい。
- 色々な方の話が聞けた。スポットでカフェ出店なども検討したい。
- NPO法人と利用者のつながりも考えたい。

○集中して仕事ができる良いスペースであり、県外の仕事仲間も良いと評価してくれている。

《市長》

○先行事例を見て、出来るまでは心配をしていたが、作って良かったと思う。

○大きな目標は、創業や事業を生み出す場としたいが、それ以上に多く方の新しい出会いやコミュニケーションでにぎわいが出れば良い。

○提案型の使い方をサポートするような仕組みづくりを市も考えたい。